

《担当者名》柳田早織

【概要】

小児発声発語障害（構音障害、鼻咽腔閉鎖機能不全、吃音）に関する基本的検査、構音訓練の実施方法を習得する。

【学修目標】

小児発声発語障害を評価・診断するための基本的検査および治療方法について理解し、その実施方法を習得する。

1. 様々な音の誤り（省略、置換、歪み）を聴覚的に評価できる。
2. 構音検査が実施できる。
3. 構音検査の結果を分析し、訓練プログラムを立案できる。
4. 様々な構音訓練の技法を実施できる。
5. 鼻咽腔閉鎖機能不全に伴う発話を聴覚的に評価できる。
6. 臨床場面で用いられる鼻咽腔閉鎖機能検査を実施できる。
7. 吃音評価に必要な項目を列挙し、吃音症状を評価できる。
8. 患者の問題に応じた適切な評価・治療を選択できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	聴覚心理的評価	発達途上にみられる音の誤り	柳田早織
2	聴覚心理的評価	発達途上にみられる音の誤り	柳田早織
3	聴覚心理的評価	異常構音（基本編）	柳田早織
4	聴覚心理的評価	異常構音（基本編）	柳田早織
5	聴覚心理的評価	異常構音（応用編）	柳田早織
6	聴覚心理的評価	異常構音（応用編）	柳田早織
7	構音検査	目的、概要、実施方法	柳田早織
8	構音検査	構音検査の実施	柳田早織
9	構音検査	結果の分析（単語検査まとめ1、2）	柳田早織
10	構音検査	結果の分析（構音検査の結果、総まとめ）	柳田早織
11	構音訓練	訓練プログラムの立案	柳田早織
12	構音訓練	[k]、[s]、側音化構音の訓練方法	柳田早織
13	吃音	吃音症状、吃音頻度、適応性・一貫性の算出	柳田早織
14	鼻咽腔閉鎖機能検査	小児の鼻咽腔閉鎖機能検査	柳田早織
15	まとめ	総括	柳田早織

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講義内課題80%、小テスト20%

【教科書】

「新版構音検査手引書」 千葉テストセンター

【参考書】

- 道健一 編 「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 - 器質性構音障害 - 」 医歯薬出版 2016年
 岡崎恵子 他 編 「口蓋裂の言語臨床 第3版」 医学書院 2011年
 伊藤元信 他 編 「言語治療マニュアル」 医歯薬出版 2017年
 阿部雅子 著 「構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 改訂第2版」 金原出版 2008年
 廣瀬肇 監 「発話障害へのアプローチ - 診療の基礎と実際 - 」 インテルナ出版 2015年

【学修の準備】

- ・ 前期に学んだ「小児発声発語障害学」を十分に復習しておくこと。(20分)
- ・ 授業終了時に提示した課題について予習をしてくること。(20分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP4) リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

柳田早織(言語聴覚士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、小児発声発語障害(構音障害、鼻咽腔閉鎖機能不全、吃音)に関する基本的検査、構音訓練の実施等に要する技術の習得を指導する。